

## 2021 年度目標達成状況報告書（工学部）

\*自己評価は「S・A・B・C」の4段階で「S：十分満たしている、A：満たしている、B：概ね満たしている、C：満たしていない」

No.	評価基準		
1	年度目標	大学院進学率の向上： 学生の卒業後の進路として、大学での専門の学びを活かして生涯に渡りやりがいを感じられる仕事につけるように、学生の研究志向、大学院進学を促進する。	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	大学院フェスティバルには、昨年を上回る参加者（389名、発表56件）があり、多くの学生からの興味を集めた。また、アンケート結果からも好評な評価を得た。 大学院進学率は学部全体で14.5%（機械工学科12.1%、電気電子工学科15.2%、応用化学科18.8%）であり、年ごとに増加している。
改善策	今後も継続して大学院フェスティバルを実施するとともに、グループワーク系講義における成果を対外発表できる機会をつくるなどの新たな取り組みを行い、学生が創造することの喜びを体感できるシステムづくりを進める。		
No.	評価基準		
2	年度目標	就職の質と内定率の向上： 学生が卒業後に満足の得られる仕事につけること、工学部での学びを学生の人生に確実に活かせるようにする。	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	就職内定率98.2%を達成し、実就職率は2022年度学部系統別就職率ランキングで全国の大学の中で第8位となった。
改善策	一部の未内定者に対しても、「本学部に入った学生すべてに必ず質の高いアウトプットをもたらしたい」という工学部のコンセプトを実現すべく、支援を行ってゆく。		
No.	評価基準		
3	年度目標	大学生生活の満足度の向上、教育システムの質の向上： 工学部の学びの質と魅力を高め、学生の活性化を図る	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	B
理由	コロナ禍で学生が大学に来られないという状況が続いた		

			中で多くの科目を対面で実施し、人を育てる教育を実践した。また、「理想的工学教育を考えるパネルディスカッション」を実施し、コロナ禍で普及したオンライン教育のメリットデメリットを学部教員全体で総括し、教育改善に役立てた。その成果として休退学者の減少を達成した。
		改善策	コロナ禍の影響で十分に行うことのできなかった国際交流、工学部サロン等の活動を今後は再開する。
No.	評価基準		
4	年度目標	工学部の魅力の情報発信： 他大学工学部との差別化と本学部の魅力を多数の人に発信する必要	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	戦略的教育プログラムを通じた情報発信、サステイナブルブランド国際会議や Japan Pack 出展などの取り組み、また多摩科学技術高校との連携などの取り組みを行なった。戦略的教育プログラムにおいては、2021 年度 NHK 学生ロボコンではベスト 4 に入りデザイン賞と特別賞をダブルで受賞するなど常連校から常勝校へと進化した。
改善策	本学工学部が先駆的に実践しているサステイナブル工学教育の外部発信、工学部のグループワーク系科目での学生の活動成果の外部発信を促進する。		
<p><b>【年度目標達成状況総括】</b></p> <p>工学部ではコロナ禍での学生の教育の質の保証をおこない、さらに学生が工学部の学びに満足するための学びの魅力の向上をはかり、そのアウトプットとして大学院進学率の向上、研究志向化、および満足度の高い就職の実現に取り組んだ。</p> <p>学びの質、就職、および研究志向化は概ね目標を達成でき、今後も継続して取り組みを進めてゆく。一方で活動状況の学外への発信は今後も工夫が必要である。情報を学外に発信することにより学生の活性化を実現するという観点から、さらなる取り組みを継続する。</p>			

**【2021 年度目標の達成状況に関する大学評価】（自己点検評価委員会）**

年度目標 4 件に対し適切な自己点検・評価がなされ概ね達成されている。活動状況の学外への情報発信については、他大学工学部との差別化や本学部の魅力を発信してほしい。